



東京日々新聞

九百十二號

一萬齋 芳幾

武州秩父郡芳野
久保村の農何某の沙魚を取らんと
網を携へ七歳の子を連れ
て溪川に臨み小児を川岸に遊ばせ置
て己の網を打ら入ると彼方此方と流
しつ歩行し忽ち蛇の聲を
揚げてアレスと聲や蛇が坊を食
ふよと叫ぶを駭け附け見れば小桶
程の蟒の後の山あり蛇の
既に吾子と九存す

△
せんとする勢ひあるを側より有
合ふ杉の丸木をとり取りて方々極めて
打ての蟒は忽ち草木を推し分け
後の山へ逃げ隠れ此の小児の何の
替り事もなく其父も煩ふ事
なき絶えたるよしとぞ此の
網打の膽の大きき男なり

具足屋

ホリ栄

